

第3回 とっとり弥生の王国調査整備活用委員会要旨

日時 令和6年2月27日

会場 青谷かみじち史跡公園 体験学習室

出席者

調査研究部会（青谷上寺地遺跡担当）：木下委員（委員長・座長）、長友委員、降幡委員

調査研究部会（妻木晩田遺跡担当）：吉田委員（副委員長・座長）、佐々木委員、寺前委員、東村委員

整備活用部会：深澤委員（副委員長・座長）、柴田委員、棚橋委員、中嶋委員、前川委員、森委員

藪田委員

事務局：とっとり弥生の王国推進課 同 青谷かみじち史跡公園準備室、むきばんだ史跡公園

関係機関：鳥取市教育委員会事務局文化財課、鳥取市役所青谷町総合支所地域振興課

米子市経済部文化観光局文化振興課、大山町観光課文化財室

1 意見交換

○ 公園、景観について

- ・ 湿地を中心に復元した弥生遺跡は例がない。今後どのようなようになっていくか楽しみ。
- ・ 水辺の護岸に金属製のビスが見えるのが気になる。目隠しできないか。
- ・ 現状では、ベンチに座っていると見えるのが高速道路なので、ベンチの方向や配置を変えて例えば山側を借景するように配慮できないか。
- ・ 公園中央の湿地に弥生時代の水田に生えていたことが分かっているミズアオイを植える予定と聞いて感心した。周辺に生える水田雑草は弥生水田の多様性を示すためにアピールすべきポイントだと思う。

○ 施設について

- ・ 今後重要文化財の貸出にあたっては、カビや虫などの疑いがあるものを仮置きする場所を設けるなど、被害が広がらないためのゾーニングを徹底すべき。

○ 調査研究について

- ・ これまでに蓄積した資料も加えて、例えば種実分析など、民間機関への委託ではできないレベルの分析によって、植生や作物などもっと詳しく分かる部分がある。調査研究を継続し、整備や活用などにその成果を反映していくことが重要。

○ 展示・解説について

- ・ 多様な種類の出土遺物がうまく保存処理されている。展示に至るまでの過程についても紹介する機会があっても良いのでは。
- ・ 美をテーマにした展示が特徴的なので、ものづくり体験にも弥生の美を体感できる活動を取り入れてほしい。また、道具の機能美を感じられる展示を工夫するとよい。

- ・ 青谷上寺地遺跡出土品の美しさは民藝的な美しさで扱うことが難しい部分もある。より深く情報を得たい人への方策や演出の仕方などの工夫があったほうがよい。
- ・ ものをしっかり見せる展示は、近年の韓国の博物館のようなデジタルを駆使して魅せる先端的な展示と対極にある。本物を見せるというこのオリジナリティを意識することで、企画展等がより魅力的になると思う。
- ・ 解説を極力少なくするというコンセプトの青谷かみじち史跡公園にあって、言葉で出土遺物・遺跡の魅力が伝えるボランティアガイドの役割は極めて重要。若い人を含め、たくさんの方がボランティアガイドに応募している状況は博物館の将来にとって希望が持てる。

○ 地域との連携について

- ・ 青谷かみじちクラブにはガイドや体験学習を指導できる人もいるが、新たなボランティア組織には入らないという人もいる。また、本日の会議の報告事項のなかに県だけでなく、市町村や民間の活動報告もあっていい。これまで地域でやってきた事業を把握し、地域の思いを受け止めた活用となるようにしてほしい。
- ・ 地域の有志として、むきばんだを使って大きなイベント等させてもらっているが、青谷上寺地でもこうした活動が受け入れてもらえる場所であり、サポートしてくれる職員がいることが魅力になると思う。このような民間と共同で行っていることもアピールすることで活用の活性化につながるのでは。史跡公園が交流点として地域の活動と融合できる場所であってほしい。
- ・ 今後、史跡公園として発展していくため、官・学だけでなく民がどのように関わっていくかが重要。そういった意味で、公園内の畑を、地域と一から作り上げていきたいとする姿勢に感心した。
- ・ 箱ものを作って終わりでない。例えばベンチなどでも、足りないものはこれから地域と作ってあげればいい。
- ・ 完成した段階での、地域の方々向けの内覧会は特別な意味があると思うので、是非検討してほしい。

○ とっとり弥生の王国について

- ・ 妻木晩田遺跡のこれまでの活用事業は全国的にも例をみないほど素晴らしいもの。これを踏まえ、特別史跡化に向けタイムテーブルを示して具体的に進めてほしい。
- ・ これまでの調査研究によって青谷上寺地遺跡、妻木晩田遺跡それぞれの位置づけが明確となっていており、学術的にも高い評価を得ている。特別史跡に充分値する。また、今後、両遺跡の総合的な活用が必要となってくると思う。

総括

- ・ 妻木晩田遺跡では、近年斜面部の発掘調査を行い、集落様相全体の解明に努めてきたところ。その利用状況その調査成果を青谷上寺地遺跡と対比することで鳥取県の弥生時代の在り方がより充実して描き出せるように努めていきたい（事務局）。
- ・ 青谷上寺地遺跡では建物遺構等の検出が難しく、これまで集落の状況が分かりづらいところがあ

ったが、年次計画に沿った丁寧な発掘調査によって、近年では湿地への絶え間ない造成工事による集落の変遷がつかめてきたところ。

- ・ 今後、鳥取の文化財行政が、各地の史跡公園運営事例からも学んで、市民に寄り添った形で発展していくことを望む。
- ・ 将来にわたって史跡を活かし育てていくのは、結局は地元の方。地域の住民の意識や協力が史跡を良くしていくことになり、同時に歴史が日常の生活に入り込んでいくことにつながる。地域とともに作り上げる史跡公園を実現するためには、まずは行政と地域との信頼関係を築くことが重要。今はそのスタートラインの大事な時であり、今日は強くそのことを感じた。今後の活用事業において、常にこの初心に帰れるようこの会の記録を作成し公開してほしい。